



「江戸時代の文学を雅という視点から捉え直す」

学習院大学

【文学部 日本語日本文学科 教授 鈴木健一】

研究者紹介

1960年生まれ。

東京大学文学部卒業、同大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。

博士(文学)(東京大学、1997年)

【キーワード、江戸時代の文学、和歌、漢詩文、古典の享受、和漢比較文学】

本研究の目的・内容

従来、〈庶民による俗文芸〉というイメージが強かった江戸時代の文学だが、天皇・公家らの宮廷歌壇や、漢学者が形成した文化圏といった〈上流階級による雅文芸〉が、文化全体に及ぼした影響は大きかった。

江戸時代初期、時代的な特質が生成されていく過程では、知識階級から庶民に向けて教養が伝播していった。したがって、この時期の後水尾天皇をはじめとする宮廷歌壇や、林羅山をはじめとする漢学者の文化圏の活動の詳細を明らかにすることで、江戸時代の文化の特質をより実態に即した形で立体的に再現できる。

そこで、後水尾天皇の歌壇における文学活動の年表を作成し、和歌表現を分析する一方、林羅山の年譜を作成し、その活動の意義を明らかにしようとした。

さらに、そこから発展して、『伊勢物語』『源氏物語』の享受史、絵画との関わり、「名所」の意味、なども考察の対象としている。

本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

江戸時代の文化と文学を、〈雅〉と〈俗〉の両面から捉えていくことで、より豊かなありかたを析出することができる。

また、江戸時代は、奈良・平安・鎌倉・室町といった「古典」と、明治以降の「近代」を橋渡しするような役割を果たしている。

江戸時代を豊かに把握することで、より魅力的な日本文化の相貌を捉えることが可能になる。

主な研究業績

【著書】『近世堂上歌壇の研究』汲古書院 1996年、

『江戸詩歌史の構想』岩波書店 2004年、

『林羅山』ミネルヴァ書房 2012年、

『江戸諸國四十七景』講談社 2016年、

『林羅山年譜稿』ペリカン社 1999年

『江戸古典学の論』汲古書院 2011年、

『古典注釈入門 歴史と技法』岩波書店 2014年、

『天皇と和歌 国見と儀礼の一五〇〇年』講談社 2017年

応対できる研究・企業等への希望

1. 共同研究

2. 受託研究/評価試験

3. 学術指導/コンサルテナ/ダ

4. 講演/出張講義

5. 寄付金受入

6. 報道等の取材/出演

7. その他()

研究者より:

【お問い合わせ】

学習院大学研究支援センター 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©12/18 GAKUSHUIN